

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：ひかりとたねの保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：石井 望	定員（利用人数）：60（69）名	
所在地：横浜市金沢区柳町1-3		
TEL：045-784-4031	ホームページ：http://www.shinonome-kai.jp/hakkei/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2021年4月1日（ひかりとたねの保育園に名称変更） （2002年 金沢八景保育園として開設）		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 しののめ会		
職員数	常勤職員：22名	非常勤職員：8名
専門職員	（専門職の名称）	
	保育士：園長 1名	保育士：19名
	保育士：主任、副主任 2名	看護師：1名 栄養士：4名
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	乳児室（0～2歳児室）3室 幼児室（3～5歳児室）2室 沐浴室 1室 調理室 1室 トイレ 4室 ランチルーム 1室 事務室 1室 職員休憩室（更衣室）1室 相談室 1室	鉄筋コンクリート造 3階建てのうち1、2階 敷地面積1,700㎡（含、園庭） 建物面積 718㎡

③ 理念・基本方針

【基本理念】

安全・安心
そして信頼をモットーに
地域社会との共生をめざします。

【基本方針】

- ・人との関わり、支え合いを大切にし、お互いを認め合い、助け合う関係を育てて、人間関係の基礎を養う。
- ・四季を充分に感じ、自然を愛しみ、心身を鍛え、物事に感動し、美しい心を育てる。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

ひかりとたねの保育園は、京浜急行またはシーサイドライン金沢八景駅から、平潟湾沿いに徒歩8分の場所にあります。園に隣接して八景公園があるほか、近隣には海の公園や野島公園、八景島等があり、散歩や園外活動の場として恵まれた自然環境にあります。園舎は、柳町コミュニティハウスと合築の3階建ての1、2階です。1階は0、1歳児、2階は2～5歳児の保育室があります。1、2階にデッキテラスがあります。園庭には、実のなる木、草花・植木、大きなクスノキ、畑、築山、固定遊具等があります。

経営法人は社会福祉法人しののめ会で、ひかりとたねの保育園のほかに、金沢区内に保育園3園、学童保育クラブ、障がい福祉サービス事業施設4園を運営しています。2002年に指定管理者として、横浜市金沢八景保育園の運営を開始し、2021年4月に名称を、ひかりとたねの保育園と改称しました。定員は0～5歳児60名で、現在69名が在籍しています。

【園の特徴】

子どもが主体的に活動したり行動できるように、見守り保育を行っています。子どもの状況や興味を把握し、遊びや活動に集中できる様々なゾーンの設定等の環境作りと保育士の関わりを工夫しています。

横浜市の職員配置基準（10名）を上回る保育士22名を配置しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月31日（契約日）～ 2022年2月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	5回（旧名称園で2016年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 子どもたちが共に育ちあう異年齢交流

低年齢児から異年齢合同の活動や、交流を日常的に行っています。職員の見守りの中、遊びや生活を一緒にし、年齢の違う色々な友達と関わり、模倣や刺激を受け積極的に物事に取り組んでいます。意見が違っても話し合ったり、お互いを思い合い、どう行動したらよいかを考え、声かけをしながら協力し合って活動しています。一日の流れも自然に理解し、主体的な生活をしています。

2. 広く社会や自然環境に目を向ける保育

中長期計画に、SDGs（すべての国を対象に、経済・社会・環境のバランスが取れた社会を目指す世界共通の17の目標）を意識した園運営を挙げています。子どもが、SDGsのマークを町で探そうという活動もしました。今年度の園のテーマはオリンピック、パラリンピックです。ピクトグラムに興味を持った子どもが、同じポーズをしてみたいとの提案から、一人ひとり違うポーズを写真に撮りました。また車椅子体験をし、傾斜のあるところで安全に使うにはどうしたらよいかなどを体験しています。

散歩で海の公園に行き、子どもが「海岸で気づいたこと」「海にどうい生き物がいたか」「海の生物を園で飼育できるか」「飼って見たらどうなったか」「海岸のごみなどはどうしたら無くせるか」など考えました。時期や時間をずらして出かけ、潮の満ち引きがあることに気づくなど、実際の体験から子どもが学んでいます。地域に

開かれた園行事、子育て支援も行っています。地域や広く社会の中で生きる子どもを意識した保育に努めています。

3. 保育力向上への努力

事業計画に「保育計画から保育実践への連動（PDCA）」が明記されており、職員はPDCAを理解し、自身の振り返りや会議で、子どもの姿やエピソードを話し合い、常時、環境構成や活動内容等を検討し工夫しています。内部研修で社会情勢を反映させた保育内容を学んでいます。保育観を同じくする園と連携した交換研修や「自己目標達成シート」「自己評価チェックシート」で定期的な振り返りを行い、園の理念の実現のため努力を重ねています。また各職員の仕事内容、期日、体調等の一覧がわかるボードがあり、お互いに仕事内容を理解し協力しあっています。

◇改善を求められる点

1. 子どもと地域との交流を広げる取組の継続

多くの社会体験を通じて子どもの社会性を育む園の積極的な活動を展開中ですが、今後も継続し、保護者にも丁寧に説明することが期待されます。

園が現在展開している例：地域との交流の場を園が積極的に設けており、子どもの交流保育、講習会等を開催し子どもと地域との交流の場を設け、また、散歩や戸外活動で、公園の清掃を子どもと職員で行っています。園の近隣での地域、町内会の行事や活動に子どもが参加する場合、支援する体制になっています。近隣の商店に食育活動のクッキングの材料をスーパーマーケットに買いに行くなど多くの体験をしています。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度は、第三者評価の受審にあたり、保護者の皆様にはアンケートや訪問調査時などご協力いただきまして大変感謝申し上げます。

また、評価機関や評価者の方々には子ども主体の保育についてご理解くださって評価結果報告書としてまとめてくださり感謝申し上げます。

評価結果報告書の内容を基に、今後もより良い保育園運営を行っていかれるように努力していきます。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり